



● 児遊の杜、杜のひろば個別学習 ●

小田島 個別対応は児遊の杜・七北田25人、杜のひろば・八木山5人、6月に杜のひろば・宮城野も開始されたが、週一回に限られている。学習時間も、午前、午後各2時間程度のみ。この状況をどう受け止めているか。

答 弁 学習時間に関しては、児童生徒の状況に十分配慮をしたうえで、段階的に小集団対応としていくことが適切であろうと認識をしている。

小田島 柔軟性のない受入体制も課題。個別対応を可能とする児遊の杜を各区に開設するか、せめて日数や時間帯を増やすなど、学びの時間帯の確保は急務。

答 弁 年度内の変更はステップアップに繋がる一方、うまく適応できず自信喪失の可能性もあり、慎重に判断することとしている。小集団で活動を体験できる機会や、通級ベースや活動内容について児童生徒が個別に相談できる機会を持つなど、状況に応じた支援にも努めている。

小田島 「適応指導教室」という名称について、子どもたちの学びを育みサポートするためにふさわしい名称となるよう変更を求める。

答 弁 教育機会確保法の基本指針等では「教育支援センター」などの名称を用いており、本市としても検討してまいります。

● 町内会へ寄り添う、行政サポート ●

小田島 町内会運営お役立ち情報について、本市・各区のHPIにも、関係する担当課へのURLを分かりやすく提示できないか。また、全ての申請書等がダウンロードでき、ネット上で申請が完了するシステムを求める。

答 弁 新たに役員となった方の目線に立ち、必要な情報の充実を図っていく。各種手続きについて可能な限り簡素化・電子化を検討し、町内会活動の負担軽減と利便性向上を図る。

● 本市公式LINEを活用した、情報等の発信 ●

小田島 「町内会活動のお役立ち情報」のメニューについて、より周知を図れるよう、LINEの機能を活用した取り組みも求める。

答 弁 LINEはホームページに掲載された情報へ分かりやすく案内できる一面もあり、これまでも活用を図ってきた。町内会活動についても、担当部局と調整し、ホームページの掲載内容充実後、LINEにも案内できるよう早期に対応したい。

小田島 地域が選択できるクマ出没情報等についても、LINEを活用したプッシュ型での情報提供を求める。

答 弁 必要な情報が個人によって異なることもあり、希望する情報の分野をLINEで情報選択できる機能を導入することとしている。クマ出没情報の配信についても、この機能の導入に合わせて、検討してまいります。

いのちを育む!! おだしま久美子 通信

Vol. 72
2022 夏号

公明党仙台市議団 青葉区国分町3丁目7-1 TEL 022-214-8718

〈不登校特例校視察〉「多様な学びを共につくる・宮城ネットワーク」の皆様と



ICT学習、自然を活かした体験授業、デマンド型車両活用での送迎…なども実施

富谷市富谷中西成田教室

一人一人の状況に合わせて、少人数での学びを提供する、東北初の不登校特例校。若生裕俊市長からは「子どもたち一人一人の多様な学びを育みたい」との熱い思い、及川芳彦教育長からは「生徒の自主性を大切にすることを先生方と共有して連携している」と開校に至るまでの経過などについてお話し頂きました。

〈訓練参加〉仙台市水防訓練

集中豪雨による氾濫を想定し、太白区広瀬川河川敷で実施。消防職員、消防団員の技術向上、住民の水防意識普及のため行われました。



〈視 察〉仙台市初・将監複合施設

(将監市民センター・将監児童センター・将監老人憩の家) 3施設の機能融合によりコストを抑えた建替えモデル事業を公明党市議団で視察。多世代交流の場「ふれ・ミー」のお話も伺いました。

〈懇 談 会〉オープンハートネット

(重い障害を持つ子どもの親の会) 顧問として関わらせて頂いている本会。2年ぶりに会合再開!! 仙台市担当職員を交えて意見交換、語り合いの場となりました。

〈緊急要望〉物価高騰から市民を守る経済対策等

中小企業・市民の声を元に、地方創生臨時交付金を活用した緊急事業等の検討、対策の実施について、緊急要望を市長に提出しました。



〈意見交換〉NPO法人起立性調節障害東北仙台親の会

遠藤のぶゆき県議会議員、宮城県教育局、仙台市教育局と参加。社会全体で理解し合う仕組みづくりへの思いをお伝えしました。

〈講座受講〉ヒアリングフレイルサポーター

「ヒアリングフレイル」は聴覚機能の低下による身体の衰え(フレイル)の一つ。聴脳科学総合研究所による講座受講によって、適切なケアやサポートが可能になります。



おだしま久美子 公式サイト



Facebook



Twitter



LINE



【令和4年第2回定例会・本会議一般質問】

● 仙台版ネウボラの構築 ●

小田島 子どもアドボケイトの市内児童養護施設、仙台市児童相談所一時保護所への派遣。今後の対象施設の拡充について。

市長 アドボカシーを進める環境の整備などを着実に進めながら、来年度の方向性を見極め、切れ目のない子育て支援のさらなる充実に向けて、効果的な施策の検討を進めてまいりたい。

小田島 本市が現在持っているポテンシャルを活かしながらアドボカシーのような本質的な環境整備を実現するには、人員確保と人材育成など抜本的な体制強化が必要。

- ネウボラ…フィンランドの出産・育児支援施設。妊産婦、子育て期の家族にワンストップで切れ目のないサポートを提供している。
- アドボカシー…弁護、支援、擁護などを意味する英語。意見を代弁する者をアドボケートという。



答 弁 県と共同で子どもアドボケイトの養成についても実施していく。

● 障がいがあっても、あたりまえに保育が受けられる環境整備 ●

小田島 保育の必要性認定は基準で切るのはなく、複合的にみるべきであり、就労時間について弾力的にみていくことの検討を求める。条例も規則も、市民を救うためにあるのではないか。

答 弁 必要な就労時間に満たないことにより保育施設を利用することが叶わない方がおり、お子さんの障害の程度によっては保育施設用に制限がかかってしまうという課題があると認識している。

小田島 医療的ケア児の保育ニーズを改めて把握し小規模保育事業者も含め、受け入れることができる保育施設の拡大を求めるが、ご所見を伺う。

答 弁 看護師配置への助成のあり方の検討などによりまして、小規模保育事業者を含めた受け入れ施設の拡充を図る。

仙台市では「プラス支援保育」として医療的ケア児の受け入れを実施。現状では全区を合計しても、公立、私立各4つの施設、合計8か所みの受け入れとなっており、拡充が必要な状況です。



▲プラス支援保育資料はこちら

● 個別最適な学びの確保へ向けた環境整備の充実 ●

小田島 個別最適な学びをどう確保していくのか。研修以外に、どのような施策を検討しているか。

市長 不登校の子どもたちの現状を踏まえると、専門職を活用したチーム学校としての対応力の強化、また、校内における学習や相談支援の機能強化が、特に重要であると考えている。



「認定NPO法人こどもむげん感ばにー」(石巻市)は、プレーパーク、フリースクールなど、多様な運営が目立っています。

小田島 フリースクール等民間団体との連携については、支援ニーズは多岐に渡り、学校・教育委員会のみで担うことは限界があるとし、協働連携により、研修会や保護者向け学習会等の補助事業や委託事業についての仕組みづくりや、ニーズに沿った制度の提案が示されている。本市の考えをうかがう。

答 弁 学習や活動内容について、出席扱いにつながる報告書の様式について話し合ったり、学校担当者と民間団体それぞれの支援状況について意見交換を行うなど、協働連携の仕組みづくりを進めている。

小田島 特例校開校に向けて、法人との連携が進められていると聞いている。法人からの設置概要を受けて、どういった協力が求められており、本市としてどのように応えていけるのか。

答 弁 令和5年4月の開校に向け、国や県との協議も継続して進めていると聞いている。また、法人からの要望を踏まえ、教育委員会や学校における不登校対策の取組状況について情報交換を行うとともに、不登校支援団体との情報交換会に法人も参加する。

● 特性がある児童生徒への理解促進 ●

小田島 「NPO起立性調節障害 東北仙台親の会」の懇談会参加に関する所感、各学校に対しての情報提供や支援の再確認について。

答 弁 学習や進路などについて様々な悩みや不安を抱えており、こうした方々に寄り添って対応していくことの必要性を改めて認識をした。

小田島 「音や光、においに敏感」「気を使い過ぎて疲れやすい」など、特に繊細な特性を持つ子「ハイリー・センシティブ・チャイルド (HSC)」は、5人に1人が該当、不登校の原因になっている可能性もあると言われており、配慮を求める。

答 弁 集団生活への適応が難しく、配慮が必要なケースがあると認識。今後、HSCについても、的確に理解したうえで必要な支援を行うことができるよう、専門家とも連携し、研修の充実を図ってまいりたい。

▶▶▶ 不登校支援事業 ◀◀◀



保護者向け／教職員向け 情報誌

仙台市では、
 ■社会全体で不登校児童生徒の支援に努めることの重要性を伝える
 ■教職員の不登校に対する理解を深め、意識の向上を図る
 …などを目的とし、情報誌の制作が行われております。スケジュール等についての質問に対しては以下のような答弁がありました。

—— 教育長答弁より ——

現在、掲載内容や取材先等について打ち合わせを行っている。保護者向けの情報誌は9月下旬、教職員向けの情報誌は1月中旬の完成、配付を予定。不登校理解、学校、家庭、関係機関連携の重要性などを、委託業者と十分共有しながら、掲載内容の充実にも努める。「NPO法人起立性調節障害東北仙台親の会」の情報周知にも活用する。